城陽スマートIC「前向きに」

太田国交大臣

城陽市の奥田市長らの要望に応じる太田国交大臣㊥

新名神 東部丘陵地 長池先行整備地区

アウトレット計画に拍車か

山砂利跡地 全体利用にも大きな効果

太田昭宏国交大臣は5日夜、京都市内で地元首長らの要望に応じ、城陽市の東部丘陵地(山砂利採取地)内に設置が期待される新名神『城陽スマートインターチェンジ』について「しっかり受けたまわった。(設置できるよう)部下に指示します」と、具体化に向けて踏み込んだ発言を行った。また、国道24号・山城大橋以南の代替ルートとして今年度、国交省が調査段階を格上げした「宇治・木津線」=城陽市～木津川市ルート=についても、太田大臣は改めて前向きに取り組む姿勢を示した。

「宇治・木津線」着工へ前進

新たな国土軸となる新名神は、来年度末供用を目指し「城陽～八幡間」(3・5キロ)が現在、建設工事の佳境を迎えているほか、近畿と中部圏を結ぶ「大津～城陽間」(25・1キロ)も2023(平成35)年度末開通という目標が定まっており、府南部地域のアクセス道路網の整備などが急がれている。

そんな中、5日夜、京都市内のホテルで開かれた竹内譲衆院議員(公明)の国政報告会に先立ち、会場を訪れた太田国交大臣と、地元首長らの要望と懇談の場が設定され、奥田敏晴城陽市長、石井明三京田辺市長のほか、新規国道整備計画を抱える向日市・亀岡市・福知山市さらに遠くは鳥取市長らが出席した。

特に、城陽市からは奥田市長、森本安太朗城陽市長、有川利彦副商議所会頭、吉川武男近畿砂利協同組合理事長らが顔を揃える熱の入れよう。山砂利採取跡地内の長池先行整備地区(27㌶)にアウトレットモール進出計画が浮上する中、新名神からの出入口となる城陽スマートインターチェンジの必要性をこれまでにも増して熱心に働きかけるべく、この日も重ね重ね要望。それに対し、太田大臣は「しっかり受けたまわった。(設置できるよう)部下に指示します」と具体的に応じ、国交省としての"正式決断近し"の雰囲気を漂わせた。

新名神宇治田原インターから城陽ジャンクション・インターチェンジの間は約7・5キロ。スマートICはそのほぼ中間点に位置し、これが完成すればアウトレットモールへの広域的集客が図れるだけでなく、山砂利採取跡地全体約420㌶の土地利用に大きな効果をもたらすものとみられる。

一方、城陽市だけでなく府南部の市町村がこぞって着手を希望する国道24号・山城大橋以南のバイパス機能を果たす新しい幹線道路「宇治・木津線」についても奥田市長が着工要望。太田大臣は「(新規道路整備に向けた調査を)格上げするよう指示した。今年度事業として、しっかり取り組む」と言及。国道24号の山城大橋以南は木津川堤防上を走っており、地盤が弱く災害発生時には、道路陥没などの被害が発生する確率が高いとされる。これに対応し、新名神へのアクセス機能と合わせて、国交省として重要路線と位置付けていることを感じさせた。